



# 大原中学校だより

【大原中学校の教育目標】  
「目的意識をもって自ら学び、心豊かに逞しく生きる生徒の育成。」



平成31年3月22日  
第15号  
校長 柴田美由紀



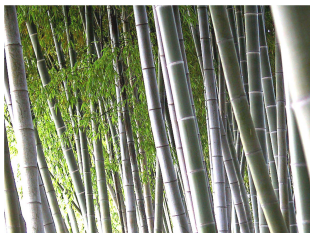
## 3月を大きな節目と考え、覚悟を持って4月からの生活に臨もう！

今年は例年より早く校庭の桜も開花し、いよいよ桜の季節が始まりました。厳しい寒さを乗り越えて、冬の間にも、やがて花咲く日を楽しみにじっと春の訪れを待っていた花たちです。大いなる自然の営みに習い、私たちも新年度に向けて心新たにしたいものです。

今日は一年の締めくくりである修了式です。先日は、立派な態度で卒業生を送ることができました。皆さんの一年間の成長を感じました。

さて、1、2年生の皆さんは覚えているでしょうか。以前、私は「竹には節があって、その節が竹を強くしなやかにしていること」を話しました。人生も同様で、人間が強くな

りなやかに生きていくには、日々のつながりに訪れるさまざまな転機を自らが節目ととらえ、それをどう乗り越えていくかが大切です。人生に大きい、小さいはありますが、いくつもの節目があると私は考えています。9日後にやってくる三月三十一日と四月一日は、学校にとって大きな節目です。つまり、皆さんは進級を一つの契機として新たな目標を抱いて歩き始めなければなりません。節目を自らに課して歩むことで、「この一日は、昨日と違う新たな一歩であると覚悟する。そうすることによって、自らを奮い立たせ、自分が変わる、自分を変えるチャンスともなり得る。」と思うからです。



この春休みを境に、中堅学年といわれてきた2年生は最高学年に進級。ついこの間入学してきたように思っていた1年生も2年生に進級。休み明けの入学式ではピカピカの新入生を迎え、先輩と呼ばれる存在になります。いよいよ皆さんがこの大原中学校を背負って立つこととなります。つまり、4月からは、先輩が築いてきた伝統を今度は君たちが受け継いでいかねばならないわけです。特に最高学年になる現2年生に課せられる責任は大きいものがあります。言葉では、学校をリードするか、生徒会の中心になるとか、新たな伝統を築くとか、いろいろ恰好のいいことが言えると思いますが、詰まるところ、それを一言で言えば何となるでしょうか。それは、「3年生よ、学校の規範となれ」に尽きると思っています。この春休みに、その心の準備をしてほしいと思います。

ところで今、私は「規範となれ」と言いました。「模範となれ」とは言いませんでした。「規範」と「模範」とはちょっと違いま

す。「模範解答」や「模範演技」という言葉もあるように、「模範」は見習うべき具体的な例や姿であるのに対して、「規範」は行動したり判断したりするときの従うべき基準のことを言います。つまり、「かくあるべし」を示したものが「規範」なのです。大原中では、「挨拶」はかくあるべし、「掃除」はかくあるべし、「授業態度」はかくあるべし、「協力する姿勢・態度」はかくあるべし…の正しい基準を新3年生が示して欲しいと願います。人が見ていようが、見ていまいが、正しいことをする。これが「規範」なのです。下級生は、3年生の行動を自らの行動の基準にします。こう言えば、「規範になる」ということは「模範になる」ということよりさらに重い責任が生じるということに気づいてくれると思います。

さあ、年のはじめといい、年度の改まりといい、それは私たちが自分の生き方の点検を求められる時でもあります。自分の成長、進歩できたのはどんな面でしょう？ 自分を認め励ます点はどんなところだったでしょう？ いたずらに他人と比較することは無用です。大切なのは自分自身を振り返ることです。新しい学年に進級する今、心を新たにするチャンスです。皆さんの更なる活躍と成長を楽しみにしています。

### これからも「凡事徹底！」… 共通の価値観に！

皆さんは、どんな1年を過ごしてきましたか。「一時間は1分が60回。一日は1時間が24回。ひと月は1日が30回。一年はひと月が12回。十年は1年が10回。」10年後どんな自分になっているか…何となく今よりもよくなっていると、何の根拠もなく思っている人もいますが、実は今の生き方が、そのまま10年後のその人の生き方であり、小さいことを疎かにする人は、やっぱり10年後も見落とし一杯の人生を送っていることでしょう。そうならないためには、今目の前にある小さな事に全力を尽くすこと、その姿勢を習慣にすることがよき人生を歩むことにつながるはずです。それが、「単純なこと、単調なこと、一見とるに足らないような小さなことに手抜きせず誠実に取り組む」という大原中の『凡事徹底』であり『自問清掃』でした。今度は、それを新3年生・2年生が、入学してくる新1年生に行動で示し、教えてあげてください。

皆さんは、国も社会も学校も自分の外側にあるもの、向こう側にあるものと考えがちだと思います。しかし、そうではありません。そこに所属する一人一人の意識が学校の雰囲気を決め、校風を決定するのです。ですから、全校生徒が『凡事徹底』という共通の価値観で結ばれることが大切です。この価値観は、見えざる校是、動く校訓となってこの大原中をさらに発展させていくことでしょう。新しい学年に進級する今、心を新たにするチャンスです。皆さんの更なる活躍と成長、そして新1年生への感化力に大いに期待しています。

「遠洋の漁場に出ようと決めると、風が起き、帆がさわめき、波が立ってくる。」  
「だが、まだ覚悟が決まらない船には風が起き、帆がさわめき、波が立ってくる。」  
人生もまた然りである。

『三万六千五百朝』  
(棟方志功)  
なんといういい言葉だろうか。  
百年生きたって僅か  
三万六千五百朝だ。  
一朝だてムダにしては  
ならないんだと、  
腹にしみわたる  
ような言葉だ  
坂村真氏